

大規模土砂災害に関する調査・研究・技術開発について議論！

～那智勝浦町で大規模土砂災害対策技術センター運営会議を開催～

- 大規模土砂災害対策技術センターは、平成23年の紀伊半島大水害を契機として、大規模土砂災害に対応するための研究・開発、土砂災害対策に関わる人材の育成等を目的とし、平成26年に近畿地方整備局が設立した組織であり、和歌山県那智勝浦町を拠点として活動しています。
- 今回、那智勝浦町に構成員が集まり、深層崩壊に関する調査研究や無人化・自動化施工技術などの取組、防災学習等における那智勝浦町との連携などについて、今後の取組方針を中心に議論しました。

<開催日> 令和8年10月13日(火)

<場所> 大規模土砂災害対策技術センター
(和歌山県土砂災害啓発センター内)

○ 開会あいさつ



防災学習等の取組について、和歌山県知事が紀伊半島大水害を風化させずに伝えていくことの大切さを強調されており、センターでもこの事実を広く知らしめる努力が必要である。本日の会議では、センターの今後の展開についても議論したい。

これまでの砂防堰堤整備について御礼申し上げる。紀伊半島大水害の被害状況、対応方法は、後生に伝える必要がある。センターの今後の展開について考えていくにあたり、那智勝浦町も協力したい。



【来賓】鳥羽副町長
和歌山県 那智勝浦町

○ 今後の取組方針について議論

無人化・自動化施工や防災学習等における今後の取組方針について話し合いました。



▲最終成果の達成に向けた課題を議論



▲那智勝浦町との連携を確認

会議結果概要

- 現在実施している各取組において、最終成果の達成に向けた課題と今後の方針について確認した。議論の中で、無人化施工は、これまで主に危険な現場で実施されてきたが、担い手不足などの観点から有人施工が可能な現場においても無人化を推進していく必要があるとの認識を共有した。また、センターとしての各取組成果を国総研資料にとりまとめ、全国へ展開することなどを議論した。
- 紀伊半島大水害の教訓継承、防災教育の推進、全国に紀伊半島大水害を知ってもらうための情報発信の強化など、那智勝浦町と大規模土砂災害対策技術センターが連携を深めていく必要性について議論した。
- 研究機構の活性化に向けて、本年度は新たな研究者の会議参加を募集している。今後、大学などの研究機関と連携をさらに強化し、若手研究者や学生の参加を促進することで、センターの研究活動や情報発信の幅が広がることに期待する。

【問合せ先】

国土交通省 近畿地方整備局
河川部 河川計画課 総合土砂災害対策係
TEL 06-6945-6355



大規模土砂災害対策技術センター
について詳しくはこちら▼

<https://www.kkr.mlit.go.jp/kiisankei/center/>